

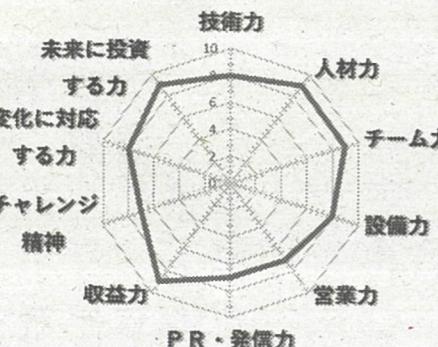
①CAE解析でデジタル化推進②新設したテクニカルセンター



本社：三重県四日市市広永町101
電話：059・364・7111
代表者：伊藤澄夫社長
創業：1945年
従業員：120人
事業内容：順送り金型設計製作、
プレス部品加工、
部品組立など。

会社の自己評価シート

CAEなどデジタルを活用した人材教育に力を入れており、「人材力」、「チーム力」、「収益力」、「未来に投資する力」に高評価。さらに、センシング機能など技術力や設備力の強化を進めているなど、次世代を視野に入れる。



CAEなどデジタルを活用した人材教育に力を入れており、「人材力」、「チーム力」、「収益力」、「未来に投資する力」に高評価。さらに、センシング機能など技術力や設備力の強化を進めているなど、次世代を視野に入れる。

また、この経験を活かし、自前でIoT化する技術開発にも着手。工作機械の稼働状況をモニタリングし、LINEで通知する仕組みを構築。伊藤社長は「リアルタイムで稼働状況を把握できれば、休日の加工終了時間でも、デジタルを活用すれば、課題を解決できる」。

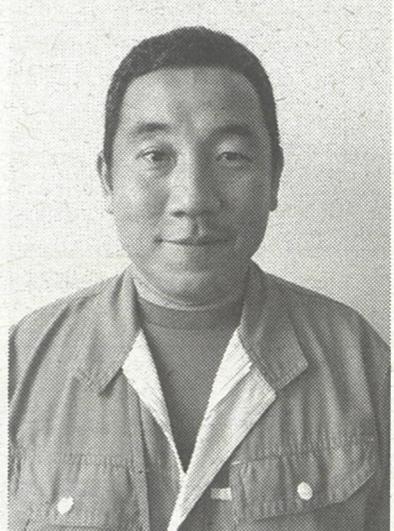
また、この経験を活かし、自前でIoT化する技術開発にも着手。工作機械の稼働状況をモニタリングし、LINEで通知する仕組みを構築。伊藤社長は「リアルタイムで稼働状況を把握できれば、休日の加工終了時間でも、デジタルを活用すれば、課題を解決できる」。

また、この経験を活かし、自前でIoT化する技術開発にも着手。工作機械の稼働状況をモニタリングし、LINEで通知する仕組みを構築。伊藤社長は「リアルタイムで稼働状況を把握できれば、休日の加工終了時間でも、デジタルを活用すれば、課題を解決できる」。

Company 26 伊藤製作所

テクニカルセンタを設立 短期間で技術者育成へ

日本の金型は、強く、たくましい
金型の底力
sokodikara!!



伊藤 竜平取締役

順送り金型やプレス加工を手掛ける伊藤製作所は本社近くにテクニカルセンタを設立し、金型部門を集約することで、本社工場などにプレス機械を増設し、需要が高まっているプレス部品の増産体制を整える。さらに、CAEや3D形状測定機、万能試験機、電子顕微鏡など設備を導入し、金型やプレス加工のデジタル化や見える化を進め、技能伝承、技術者の早期育成、熟練者の暗黙知の形式化を図る。

「金型技術者の育成は30年かかると言われるが、10年で一人前にできれば、30年間活躍できる」と伊藤澄夫社長は話す。金型製作は経験に基づくノウハウが必要で、従来

若手技術者がCAEに取り組み、想定以上の早さで設計能力を向上させている。

続けて、取り組んだのがプレス加工のデジタル化や見える化で、金型内やプレス機にセンサを組み込み、材料表面温度や

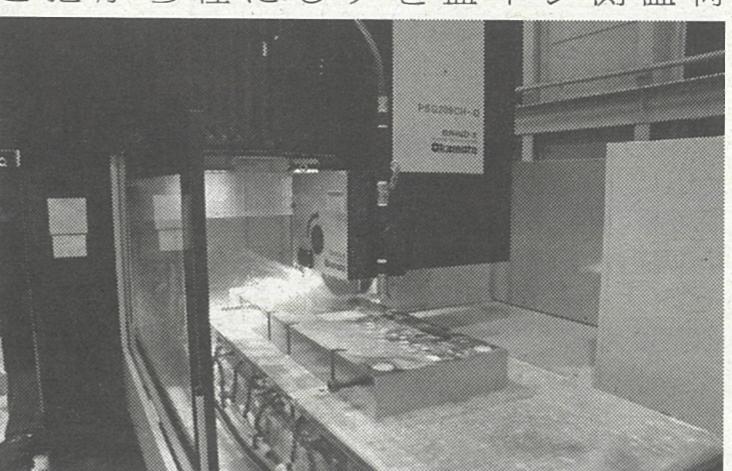
若手技術者がCAEに取り組み、想定以上の早さで設計能力を向上させている。

藤竜平室長は「これまで現場には高速度カメラを設置。モニタリングで異常が出た場合、実際の現場で何が起きたかを録画し、映像と波形データから問題の早期発見・解決を図った。伊藤室長は「小さな間の目には分からぬ。でも、デジタルを活用すれば、課題を解決できる」。

藤竜平室長は「リアルタイムで稼働状況を把握できれば、休日の加工終了時間でも、デジタルを活用すれば、課題を解決できる」。

さらに、現場には高精度カメラを設置。モニタリングで異常が出た場合、実際の現場で何が起きたかを録画し、映像と波形データから問題の早期発見・解決を図った。伊藤室長は「小さな間の目には分からぬ。でも、デジタルを活用すれば、課題を解決できる」。

藤竜平室長は「リアルタイムで稼働状況を把握できれば、休日の加工終了時間でも、デジタルを活用すれば、課題を解決できる」。



高難易度な金型の受注へ